

## 2-1

難易度 ★★

## 心理臨床面接

check

キーワード ・治療同盟 ・ラポール ・治療構造

過去問題 ③ 26,35 ④ 53 ⑤ 62 ⑥ 74,77,87 ⑦ 89,86,87,56,59,60,66,91 ⑩ 57,65 ⑪ 54,80,84 ⑫ 56 ⑬ 60,78 ⑭ 100 ⑮ 43,69 ⑯ 36 ⑰ 41, 60,92,93 ⑱ 58 ⑲ 50 ⑳ 25 ㉑ 44,56 ㉒ 68,72,74 ㉓ 62,63 ㉔ 70

カウンセリングのことを、別の呼び方で心理臨床面接という呼び方をします。カウンセリングや心理療法は、学派によって異なる部分は多々ありますが、共通する大切な部分は同じです。

## ●臨床心理学と心理臨床

心理学の歴史は短く、その心理学を基礎として、応用心理学と呼ばれる分野が生まれてきました。応用心理学の中でも最も有名なものが臨床心理学です。臨床心理学とはclinical psychologyの訳語ですが、「床に臨む」と書くようにbedside(枕元に寄り添う)の意味からきており、実際に枕元に行くことはあまりないものの、「人に寄り添う心理学」と考えることができます。

それに似た言葉として、「心理臨床」があります。「臨床心理」が「臨床のための心理(学)」という学問であるのに対し、「心理臨床」はより現場感覚重視の「心理に関する臨床(現場)」そのもののことを指します。「心理臨床学」という言葉が用いられることもあります。「心理臨床」の言葉自体は、学問を指すよりも、むしろ「カウンセリング(counseling)」や「心理療法(psychotherapy)」と近い意味で使われます。

## ●カウンセリングと心理療法

カウンセリングと心理療法という二つの言葉には、明確な使い分けはありません。ただ、意味の違いとしては以下のように考えられます。

カウンセリング	カウンセリングとは、もともと職業指導の文脈でパーソンズが使ったことが始まりとされています。このようなパーソンズから始まる“指示的”なカウンセリングに対して、ロジャーズは原則的に助言をしない相談である“非指示的”なカウンセリングを提唱しました。現在、カウンセリングとは主に、ロジャーズの提唱した“非指示的(non-directive)”かつ“支持的(supportive)”なカウンセリングのことを示すことが多いといえるでしょう。
心理療法	心理療法は、シグムント・フロイトが始めた精神分析が元といわれています。「精神分析なくして、他の心理療法の発展はありえなかった」といわれる精神分析ですが、その精神分析のほか、精神分析への批判から生まれた心理療法やそれに続く多種の心理療法など、薬物や外科的治療を用いずに精神面や認知・行動面、人間関係に対して影響を与えるアプローチの総称として、心理療法という言葉が使われます。

## ●心理臨床面接の流れ

臨床心理士がカウンセリングや心理療法を行う際、治療者のことを心理療法家(psychotherapist)の略でセラピスト(therapist)と呼び、来談者のことをクライエント(client)と呼びます。病院での医師(doctor)と患者(patient)関係とは異なり、治療契約(therapeutic contract)と呼ばれる契約のもと、できる限りセラピストとクライエントが、対等の立場でカウンセリング・心理療法を進めます。また、治療同盟(therapeutic alliance)と呼ばれるように、セラピストークライエント間で治療目標に向かって同盟を組むことが大切ともいわれます。

セラピスト (therapist)	—	クライエント (client)	≠	医師 (doctor)	—	患者 (patient)
----------------------	---	--------------------	---	----------------	---	-----------------

カウンセリングでは、最初の申し込みがあった後、インテーク(初回面接:intake)を行います。

インテーク面接	主な目的は情報収集で、来談した動機である主訴(chief complaint)を聴き、来談者や来談者に関係する人物(家族や学校の教師、友人・知人など)、その周囲の環境や状況などについて理解を深めようと努力します。
インターカー (初回面接者)	インターカー(intaker: 初回面接者は単にクライアントから情報収集を行うだけではなく、次回以降のカウンセリング継続ができるように、クライアントとの間の信頼関係を築き上げなければいけません。その信頼関係の形成のことをラポール(rapport)の形成と呼びます。

インテークにおいて、所属する相談施設では十分な援助ができないと判断された場合や、臨床心理士・公認心理師の能力を超える場合、また医学的治療・検査が優先される場合には、リファア(refer: 紹介)する場合があります。その際セラピストは自分の能力を過信せず、クライアントにとって最適な判断ができるようにします。

インテークの後、通常は継続面接としてカウンセリングを数回～数十回(場合によっては数百回)と行い、それが途中で途切れてしまう場合、つまり来談者が来なくなってしまうこと(中断)が起きなければ、少しずつカウンセリングの頻度を減らしていったり、フォローアップ面接を行いつつ、終結と呼ばれる最終面接までカウンセリングを行います。カウンセリングの間に主訴がズレていったり、主訴が変わる可能性もあるため、主訴がはっきりしない場合は、途中で主訴の確認や、主訴の再設定が必要なこともあります。

### 申込から面接の継続～終結までの流れ

